

日川協通信 (110)

平成26年9月1日



一般社団法人全日本川柳協会

〒530・0041 大阪市北区天神橋一丁目

北一―一九〇五

電話 (06) 63352122

FA X (06) 63352124

振替口座 009701913575

<http://www.nissenkyou.or.jp>

ご挨拶

理事長 大野 風柳

暑い日が続いております。今回の台風11号の影響を案じて
おります。最近の天候が落ち付かず、ご苦勞されていると推
察いたしておりますが、川柳の方はいかがですか。

私どもの全日本川柳協会も皆さん方おひとりおひとりの
交流をと思っておりますが、日川協会員である川柳社も、会
員の減少、運営費の増加の中のご苦勞をお察いたします。

先般、公益社団法人日本文芸家協会では『文学は消えてゆ
くか?』というテーマのディスカッションを開き、なぜ文学
は読まれなくなったのか(縮む出版業界)というテーマで
語り合って居ります。内容の小見出しを紹介しますと、縮

む出版業界』 『教養主義の解体』 『社会の二極分化がすす
んだ』 『作品はだれのものか・著作権保護期間、50年と7
0年どちらが正当?』 『文学の未来を担うもの・職業作家が
いなくなる』 『広く多く読まれるために』 など입니다。

川柳界に於いても、やはり目を将来に向けての意見交換が
必要かと思っております。

現実の厳しさ、将来への不安に川柳は俗の感覚で立ち向か
う心構えも必要かと思ひます。

先を忘れることなく、現実の問題をひとつひとつ潰してい
く馬力を私たちは持っている筈です。真剣にそして誠実にこ
れらを考えることを忘れないように、私もがんばります。大
きなものを見抜きながら小さなものをひとつずつ潰していこ
うではありませんか。私たちは常に現実の上に佇ちつづけて
いることを確認したいと思ひます。

正味財産増減計算書

平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減	備考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	34,781	26,831	7,950	
受取入会金	27,000	24,000	3,000	
柳社入会金	18,000	21,000	△ 3,000	
個人入会金	9,000	3,000	6,000	
受取会費	5,432,000	5,714,000	△ 282,000	
理事会費	384,000	432,000	△ 48,000	
常任幹事会費	2,640,000	3,000,000	△ 360,000	
正会員会費 (団体)	2,282,000	2,198,000	84,000	
正会員会費 (個人)	126,000	84,000	42,000	
普及向上事業収益	14,413,673	12,238,434	2,175,239	
誌上大会	3,363,943	0	3,363,943	
全国大会 (事前)	1,988,120	1,848,075	140,045	
全国大会 (当日)	7,132,899	4,177,229	2,955,670	
写真名鑑	0	3,080,000	△ 3,080,000	
国民文化祭	0	2,054,080	△ 2,054,080	
表彰後援事業	246,900	239,050	7,850	
選考協力事業	1,681,811	840,000	841,811	
受取補助金等	0	7,717,057	△ 7,717,057	
受取寄付金	1,110,000	250,000	860,000	
雑収益	0	0	0	
経常収益計	21,017,454	25,970,322	△ 4,952,868	
(2) 経常費用				
事業費	18,839,365	22,892,085	△ 4,052,720	
給料手当	3,411,999	3,367,602	44,397	
臨時雇賃金	79,440	1,539,242	△ 1,459,802	
退職給付費用	135,000	0	135,000	
福利厚生費	0	0	0	
旅費交通費	725,440	1,848,240	△ 1,122,800	
通信運搬費	1,440,703	1,955,376	△ 514,673	
支払手数料	4,095	0	4,095	
消耗品費	135,996	470,084	△ 334,088	
借損・設営費	0	780,608	△ 780,608	
印刷製本費	2,147,334	4,639,103	△ 2,491,769	
光熱水料費	99,985	105,653	△ 5,668	
賃借料	1,091,588	1,091,588	0	
保険料	46,950	47,850	△ 900	
諸謝金	1,480,000	1,460,000	20,000	
租税公課	0	0	0	
表彰後援費	907,936	1,079,510	△ 171,574	
広告宣伝費	0	30,000	△ 30,000	
実行委員会運営費	7,132,899	4,477,229	2,655,670	
雑費	0	0	0	
管理費	1,803,398	1,428,527	374,871	
給料手当	379,111	374,178	4,933	
退職給与費用	15,000	0	15,000	
福利厚生費	46,100	43,380	2,720	
会議費	161,124	196,849	△ 35,725	
旅費交通費	171,920	151,080	20,840	
通信運搬費	146,842	179,507	△ 32,665	
支払手数料	6,390	0	6,390	
消耗品費	15,110	23,934	△ 8,824	
印刷製本費	191,100	0	191,100	
光熱水料費	11,109	11,739	△ 630	
賃借料	121,288	121,288	0	
保険料	0	10,050	△ 10,050	
法定福利費	138,808	29,087	109,721	
租税公課	0	0	0	
接待交際費	7,200	11,500	△ 4,300	
雑費	392,296	275,935	116,361	
経常費用計	20,642,763	24,320,612	△ 3,677,849	
当期経常増減額	374,691	1,649,710	△ 1,275,019	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
退職給付取崩益	0	451,639	△ 451,639	
経常外収益計	0	451,639	△ 451,639	
(2) 経常外費用				
(該当なし)	0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	451,639	△ 451,639	
当期正味財産増減額	374,691	2,101,349	△ 1,726,658	
一般正味財産期首残高	5,012,054	2,910,705	2,101,349	
一般正味財産期末残高	5,386,745	5,012,054	374,691	
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	21,000,000	21,000,000	0	
指定正味財産期末残高	21,000,000	21,000,000	0	
III 正味財産期末残高	26,386,745	26,012,054	374,691	

監 査 報 告 書

一般社団法人全日本川柳協会
理 事 長 大野 英雄 殿

平成 26 年 4 月 24 日

一般社団法人 全日本川柳協会

監 事

天根 利徳

監 事

秋田

恂



私は、平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日までの第 22 期会計年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて計算書類及び公益目的支出計画実施報告書の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

2 監査意見

- (1) 正味財産増減計算書、貸借対照表は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の損益及び財産の状況を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告書の内容は真実であると認める。
- (3) 公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認める。
- (4) 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

以上

平成26年度 第2回理事會

東西合同常任幹事會 (六月二十九日)

通常總會

場所 富山国際会議場

定足数の確認のあと議事録署名者選出

東西常任幹事會・總會 議案

議案第一号 平成25年度事業報告承認

の件

議案第二号 平成25年度収支決算報告承認の件

承認の件

報告第一号 平成25年度監査報告の件

議案第三号 定款一部変更承認の件

報告第二号 全国大会表彰の件

その他

理事會 議案

議案第一号 定款一部変更追加の件

議案第二号 顧問推薦承認の件

報告第一号 アンケートの件

その他

右の議案案件について審議の結果、理事會、總會で承認された。

〈大会連続出席者〉

連続10回参加

齊藤 哲夫・辻 敬子

辻 晩穂・松浦美恵子

渡辺 松風・加藤 星花

鈴木さくら・田原せいけん

渡辺 幸士

連続15回参加

荻原美和子・本田 智彦

〈マスコミ柳壇の指導を10年以上行った者〉

酒井 路也・石川 三昌

平山 繁夫

〈第10回80歳以上の功労者顕彰〉

成田 孤舟・中沢久仁夫

會田規世児・住田英比古

竹森 雀舎

協会運営に貢献のあった方

佐々木文字

〈第7回川柳文学賞〉

正賞「水 曆」 松田ていこ

準賞「蛙の花と雨蛙」 やまで多み

奨励賞「かくや川柳姿の十五の後」 倉間しおり

第38回富山大会選者

第一部 事前投句選者

「コピー」 あきた じゅん 選

「くすり」 弘 兼 秀子 選

「どきどき」 田 中 寿々夢 選

「巡る」 梅 崎 流 青 選

第二部 当日投句選者

「黒」 高 瀬 霜 石 選

「軽い」 恒 弘 衛 山 選

「風船」 米 島 暁 子 選

ジュニア部門

「黒」 福 村 今 日 志 選

「風船」 牧 野 芳 光 選

「自由に作る」 川 合 笑 迷 選

第二次選者

竹本 瓢太郎・久保田 半蔵門

大木 俊 秀・田 中 八洲志

矢沢 和 女

(順不同・敬称略)

第38回 全日本川柳 2014年 富山大会

(当日参加者 627名 / 事前参加者 1,800名 / ジュニア参加者 12,004名)

文部科学大臣賞

寺巡る度に鱗を置いてくる

鳥取 政岡未延子

参議院議長賞

木簡のかすかな文字がしゃべり出す

奈良 西川 國治

川柳 大賞

吊り革にコピー人間ぶら下がる

山口 田中 博美

大会 賞

内紛の国に生まれた子の命

宮城 仁多見千絵

徘徊の母風船と出て行つた

東京 辻 直子

吹き込んだいのち紙ふうせん弾む

静岡 岡 水品 団石

生き過ぎることも苦勞とくすりのむ

山口 竹本チエ子

痛み止めこんなに残し逝つた母

富山 金崎 健一

わたくしの中で発酵してる黒

佐賀 真島久美子

風船を追いかけ自由人になる

島根 石橋 芳山

九条のコピーしつかり取つておく

山形 中川 晴海

黒光りするほど生きて生きて死ぬ

鳥取 藤原 鬼桜

吊り橋の揺れへくすりがてばなせぬ

広島 高橋 鬼焼

幻灯も終わるお浄土にかえろう

長崎 小田 八宝

ジュニア部門

富山県知事賞

ふうせんはゆめをのせたらおもくなる

高知 高岡第一小2 廣澤 權士

富山市長賞

カラフルな色になじめぬ黒の意地

青森 佐井中2 船越 桃佳

富山県教育長賞

じゅ業中えん筆たちがおどつてる

広島 佐方小4 日高 空

北日本新聞社社長賞

カラフルなふうせんみたいぼくたちも

富山 鵜坂小5 増沢 駿希

全日本川柳協会賞

悪口が君の風船割りにいく

富山 大沢野小6 小森 望月

がようしにゆめをかいたらはみだした

山口 多磨小4 陶 智美

教育新聞社賞

かき氷今日の気分はメロンかな

岩手 城北小4 吉田 脩悦

日本人やつぱり黒だかみの色

富山 大久保小6 清水 瑛美

日が落ちて黒に染まってゆく自然

山口 田万川中2 須郷 賢

第7回川柳文学賞受賞作品

正賞『水 曆』

松田 ていこ

準賞『畦の花と雨蛙』

やまで めみ

奨励賞『かぐや 川柳少女の十五の夜』

倉間 しおり

二〇一四年六月二十八日、富山県・富山第一ホテルにて授賞式が行なわれ、平山繁夫選考委員をはじめ、多数の川柳家にお集まりいただき、賞状、盾と副賞10万円が、受賞された松田ていこ氏に手渡されました。また、準賞を受賞されたやまでめみ氏には賞状、盾、副賞3万円が、今回特別に設けられた奨励賞を受賞された倉間しおりさんに賞状、盾、記念品が手渡されました。

第7回川柳文学賞は平成25年に発刊された句集のうち、申請

のあった22冊を選考委員（大木俊秀・久保田半蔵門・平山繁夫・雫石隆子・林えり子（作家））5名（敬称略）が選考しました。

■ 総評 選考委員・平山繁夫

第七回川柳文学賞選考委員会を日川協大阪本部で開いた。選考委員は、大木俊秀委員、久保田半蔵門委員、平山繁夫、文面参加として雫石隆子委員、林えり子（作家）委員、オプザーバーとして本田智彦事務局長が出席した。応募句集は22点であり、入賞作品は次の通りである。

正賞『水曆』

松田ていこさん

準賞『畦の花と雨蛙』

やまでめみさん

奨励賞『かぐや 川柳少女の十五の夜』

倉間しおりさん

『水曆』

第一位 推薦者 久保田半蔵門委員

研ぎ澄まされた感性は心を打つものがある。この抒情性が文学の価値として高めている。多少の文語詩や切れ字が気になるかも知れないが、それが作者の持ち味として生きている。この句集を第一位に推したい。

第一位 推薦者 平山繁夫

現代の人間存在の危うさを死という主題に置いている。これは人間の虚無の実相であり、人間崩壊を支える核として知性や抒情の近代的成熟が見られる高質の一書である。

第二位 推薦者 大木俊秀委員

体調不良のため、評者の選考基準は届いていない。

『蛙の花と雨蛙』

第一位 推薦者 大木俊秀委員

第二位 推薦者 久保田半蔵門委員

『蛙の花と雨蛙』有機、無農薬、無化学肥料の本物志向を指しておられる專業農家の主婦である。自然と対峙してまじめに生きてこられた姿は尊い。一年に二冊目を出版され、絵も上手に描かれる。これこそ農に携わる方の詩だと思う。

『かぐや 川柳少女の十五の夜』

第三位 推薦者 久保田半蔵門委員

15歳の少女が奏でる川柳だ。少し迷ったことも確かだ。俳句界にランドセル俳人がいるのなら川柳界にかぐや少女が居てもよい。句も大人の川柳と大差なく素直に伸ばしたい。

第三位 推薦者 林えり子委員

若い世代の活躍の一端を知った作品集である。3歳から作句開始とのことで、すでに熟練の域に達しているのでしょう。「爪を切る時は無心になれるのに」etc 生活詩をかるやかに詠むあたりは将来を囑望させます。

今回、新しく設けられた奨励賞は、私たち忸怍たる川柳家の新しき未来を15歳の少女に仮託する思いの結晶が、満場一致の形となった。その他、一位に推した作品名、雫石隆子委員は、『新家完司川柳集(六)』、林えり子委員は『めぐ美(二)』堀尾すみゑさんである。

現代批評を自我として取りあげ、そこに血肉という感情を付託した比較的厚重な作品が見られた。私小説的な作品も散見されたが、鋭く自己を追いつめ、現代の不安を問題提議する作品もあつた。今後も内質の高い作品を期待したい。

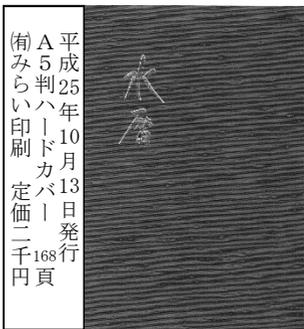


松田 ていこ 氏



■ 主な掲載作品『水暦』

花陰の亡母もかげろう吾もかげろう
たまゆらの花のいのちに命名す
たましいの奥へ奥へと鈴をふる
髪を梳く吹雪の音をききながら
虚と実の扉へ人形のゆびが触れ
凛々と澄みゆけ蒼きけものたち
水かがみ亡母と相似の炎を揺らす
桃あらう手もとの闇をほどきつつ
亡姉ひとり鷺草の夜をわたりくる
ふり向いた少女に点る水螢
風光る秋の花嫁うつむけば
留袖をたたむ寂しくあたたかく



平成25年10月13日発行
A5判ハードカバー 168頁
袖みらい印刷 定価二千円

■ 主な掲載作品『畦の花と雨蛙』

降るまでは鳴き止めません雨蛙
マンサクの谷水引いて張る棚田
黒土に寄る小鳥らと打つ春田
畝休め見上げる峯に山ざくら
耕して大地の力もらう鋤
ふる里はどこも絵になる過疎の春
新品種のときめくタネを埋めていく
出来秋の夢を見させる苗のよさ
葉桜に始まり藤も見て棚田
頬なでる風さわやかに初田植
とびつきりうまいおむすび田植唄
早苗吹く風さわやかに植えじまい

やまで るみ 氏

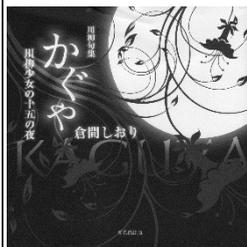


平成25年5月29日発行
A5判ソフトカバー 128頁
新葉館出版 定価千円(税別)

倉間 しおり さん



■ 主な掲載作品『川柳句集 かぐや―川柳少女の十五の夜』



平成25年12月15日発行
A5判ハードカバー 64頁
新葉館出版 定価千二百円（税別）

ひとりでは月に帰れぬかぐや姫
懂れてキリンに化けてみるバナナ
魂に塗るクリームはありますか
いつからか口の一部になったガム
三日月の欠けた部分に宇宙人
妙案は出てこぬ自動販売機
尾を生やす正直者になりたくて
トナカイもピエロも同じ赤い鼻
一本の木になりたくて入る森
夏祭り魍魎魍魎とすれ違う
マンションの窓開けきって夏に会う
庶民派のイメージがある鯨フライ

8学 回賞募集

川柳 第文

日川協では川柳の普及向上を目的として、毎年1年間に出版された川柳個人句集のうち、もっとも優れた川柳句集に対して「川柳文学賞」を授与しています。

平成26年1月から12月末日までに刊行した句集6冊及び同句集の概要説明書を平成27年1月末日までに当協会の「川柳文学賞」選考委員会宛にお送りください。

沢山のご応募お待ちしております。

2015年は、「誹風柳多留」文芸川柳発祥250年の節目です。

平成26年度 80歳以上の功労者略歴

(敬称略)

東京都 成田 孤舟



昭和5年3月30日
秋田県生まれ
昭和23年頃から新聞
川柳への投句から始
める。
昭和28年、小樽川柳

社同人。

昭和35年、川柳白帆吟社同人。昭和48年、川柳白帆吟社主幹、現在に至る。

平成15年川柳人協会賞受賞。
句集『風の四季』。

山梨県 大沢久仁夫



昭和6年1月13日生
水晶彫刻伝統工芸士
俳句の作句活動を経
て、「川柳ころ柿」に
参加していた親戚に

勧められ昭和25年、19歳で川柳を知る。
中沢春雨に師事。

平成9年「川柳轍」を創刊、主宰となり
現在に至る。

山梨県川柳会会長、山梨日日新聞、甲府
市広報誌、金田一春彦こぼの学校、各
川柳選者として川柳の普及と後進の育
成に尽力する。著書に「桜守」「川柳作
家全集 中沢久仁夫」。

現在、日川協常任幹事。

愛知県 會田規世児



昭和6年8月13日
昭和25年、稲吉歌笑
(佳品)氏のすすめ
で川柳を始める。
昭和26年、当時、川

柳の第一人者だった川上三太郎氏が岡
崎を訪れたのを機に、稲吉佳品氏と岡崎
川柳研究社を設立。現在、同結社の主幹
を務め、会員らの作品を集めて月刊『川
柳岡崎』を発行している。

平成元年、川柳初の個展を開く。
平成18年、西尾市妙喜寺に句碑建立。

平成19年、愛知県文化功労賞受賞。
著書に合同句集「風輪」、川柳作家全集
會田規世児。

大阪府 住田英比古



昭和6年7月11日生
まれ
昭和38年頃 会社所
属職場川柳会で川柳
作句。

昭和40年 番傘川柳本社 誌友
昭和42年 番傘川柳本社 同人
各地句報担当、句会部長、誌友句選者等
を経て、同人句選者、現在に至る。
現在、番傘川柳本社 幹事長。

大阪府 竹森 雀倉



昭和8年3月16日
島根県松江市生まれ
平成5年3月 江崎
グリコ(株) 定年に
より退社。

昭和54年 番傘同人となり今日に至る。
現在、日川協常任幹事。

全日本川柳誌上大会のご案内

(平成柳多留第18集)

日本の全柳人が、だれでも、どこからでも参加できる「全日本川柳誌上大会」(平成柳多留第18集)を開催します。日川協年次大会・国民文化祭文芸大会と並ぶ(一社)全日本川柳協会の権威ある三大年間行事ですので、こぞってご参加ください。

一般社団法人 **全日本川柳協会**
理事長 大野 風 柳
出版委員長 河 内 天 笑

課題と共選者 (各題2句・連記)

「ルーツ」 廣 島 英 一 — 大 楠 紀 子 共選
「ゆったり」 花 道 歌 子 — 川 端 一 歩 共選
「招く」 大 野 風 太 郎 — 淡 路 獭 眠 共選
「種(字結び可)」 館 岡 稻 風 — 上 甲 満 男 共選
「栄える」 辻 晚 穂 — 平 山 繁 夫 共選

第二次選者 岡 崎 守 河 内 天 笑 佐 藤 岳 俊
渡 辺 梢 田 中 新 一

参加費 2000円 (投句料・『平成柳多留』第18集代金含む)
賞 平成柳多留賞・川柳大賞・NHK会長賞
日本青少年育成協会会長賞・全日本川柳協会賞
全日本川柳誌上大会賞 (予定)

締 切 平成27年1月31日(土)〈当日消印有効〉

発表・表彰 第39回全日本川柳千葉大会(平成27年6月)

参加方法 参加用紙に記入し、参加費2000円(振替又は小為替)とともに下記へご送付ください。

〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1-11-905

一般社団法人 **全日本川柳協会**

電 話 (06) 6 3 5 2 - 2 2 1 0

F A X (06) 6 3 5 2 - 2 4 3 3

振替口座 00970-9-3575

今後の全国大会予定

▼ 千葉

平成27年6月14日(日)
銚子市青少年文化会館

▼ 愛媛

平成28年6月26日(日)
ひめぎんホール

▼ 平成29年度は交渉中

▼ 熊本

平成30年6月

今後の国民文化祭予定

▼ 秋田

平成26年10月19日(日)
サンルーラル大湯

▼ 鹿児島

平成27年11月1日(日)
薩摩川内市入来小学校

▼ 平成28年度以降は未定

日川協加盟柳社一覧表訂正・変更

平成26年6月以降

頁	柳社名	箇所	追加・訂正・変更内容
14	オホーツク文庫	会名	北見川柳社 → オホーツク文庫
19	上州時事川柳クラブ	会長	秋山 春海 〒372-0047 伊勢崎市本町20-1 TEL 090-4703-9408
32	番傘川柳北斗会	会長	大堀 正明 〒532-0012 大阪市淀川区木川東4-3-34-212 TEL 06-6305-4536
40	耶馬川柳会	会長	福澤 廣明 〒871-0153 中津市大真371-45 TEL&FAX 0979-32-0785
45	磯野いさむ	住所	〒573-0036 枚方市伊加賀北町4-3 パークビルかがやき3F4号室 TEL 0072-846-1570

(元幹事・常任幹事)

平成26年6月以後(敬称略)

謹んでお悔み申し上げます。

逝去日	所属柳社名	お名前	年齢
8/8	元日川協常任幹事	伊豆丸 竹仙	89
8/13	元日川協常任幹事	吹田 朝児	89

編集後記

★先般、広島市を襲った豪雨で多数の犠牲者が出たことに心からお見舞いとご冥福をお祈りいたします。天災の怖ろしさをまざまざと痛感し、予防のための努力を常々しておく必要性を実感した次第です。

★今年の日川協三大行事も「国民文化祭あきた」が残っています。大湯村という自然豊かなところでの開催、成功を祈りたい。

★日川協の全国大会「ジュニア部門」の参加者が今年はじめて一万人を超えました。これらの方が大人になつてからの川柳に対する傾向に注目したい。

★こんごの全国大会開催について、開催地選びが従来通りスムーズに行くとは限らない状態になっています。指導者の高齢化もさることながら、大会を進行するスタッフ不足も問題となつて、油断できない状態です。この件について真剣に考える時期に来ているようです。

★柳多留二百五十年の二〇一五年行事について協力を願う運動のPRに勤めたいと思います。

(事務局長 本田智彦)